

令和元年度 事業所におけるがん検診等実態調査（概要）

1 調査目的

職域におけるがん検診の受診率向上やがん対策の推進を図るため、事業所でのがん検診実施体制や、従業員の受診状況、受診しない理由等の実態を把握する。

2 調査方法及び調査内容

県内の調査機関に委託して、次の2つの調査を実施した。

（1）職域におけるがん検診等に関する調査（事業所向け調査）

- ①調査対象 1,800 事業所(事業所母集団データベースより常用雇用者数 10 人以上の民営事業所を層化抽出)
※県内 17 健康保険組合を含む
- ②調査方法 郵送法により、調査票を送付して回答を求めた
- ③調査内容
 - ・ 検診実施体制（検診実施部位、対象年齢、費用負担等）
 - ・ 部位ごとの受診者数、受診率
 - ・ 受診のための工夫（受診のための休暇制度、検診費用の助成等）
 - ・ がん検診を実施しない理由
 - ・ 仕事と治療の両立支援に係る福利厚生の内容 等

（2）従業員のがん検診等に関する意識調査（従業員向け調査）

- ①調査対象 事業所向け調査対象から事業所規模に応じて層化抽出 3,000 人
- ②調査方法 郵送法により、事業所へ調査票を送付し、事業所が調査対象を選定回収にあたっては、各従業員から直接返送にて回答を求めた
- ③調査内容
 - ・ 30 年度に受診したがん検診の種類
 - ・ がん検診受診のきっかけ、動機
 - ・ がん検診を受診しない理由
 - ・ 自身の健康状態や周囲のがん患者の有無による受診行動の差

※本調査では、国が推奨する5つの部位のがん検診を中心に回答を求めた

【国が推奨するがん検診】

部位	検診方法	対象年齢	検診間隔
胃	内視鏡検査 (胃X線検査)	50歳以上 (40歳以上)	2年に1回 (1年に1回)
大腸	便潜血検査	40歳以上	1年に1回
肺	胸部X線検査	40歳以上	1年に1回
乳	マンモグラフィ検査	40歳以上	2年に1回
子宮頸部	細胞診	20歳以上	2年に1回

3 調査期間

令和元年 10月7日～11月1日

4 回収結果

- （1）職域におけるがん検診等に関する調査（事業所向け調査） 621 事業所から回答（回収率 34.5%）
- （2）従業員のがん検診等に関する意識調査（従業員向け） 1,167 名から回答（回収率 38.9%）

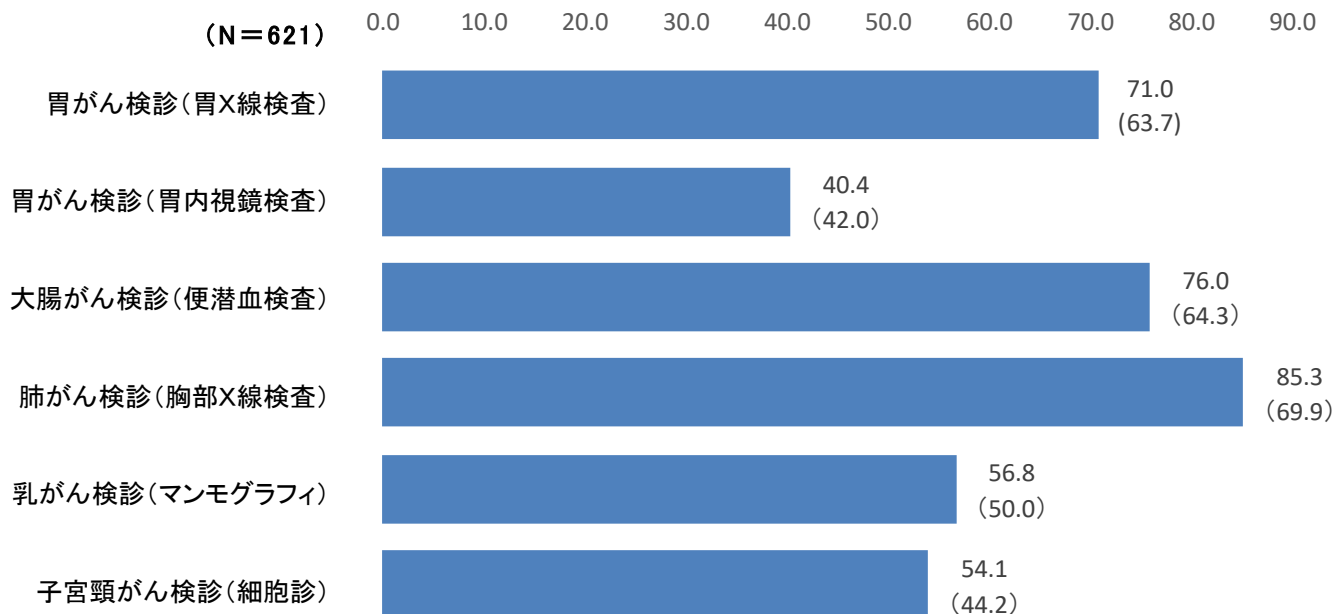
5 調査結果

(1) 職域におけるがん検診等に関する調査（事業所向け）

①事業所におけるがん検診の実施率

部位別のがん検診実施率をみると、「肺がん検診（胸部X線検査）」が 85.3%と最も高く、次いで、「大腸がん検診（便潜血検査）」が 76.0%、「胃がん検診（胃X線検査）」が 71.0%となっている。

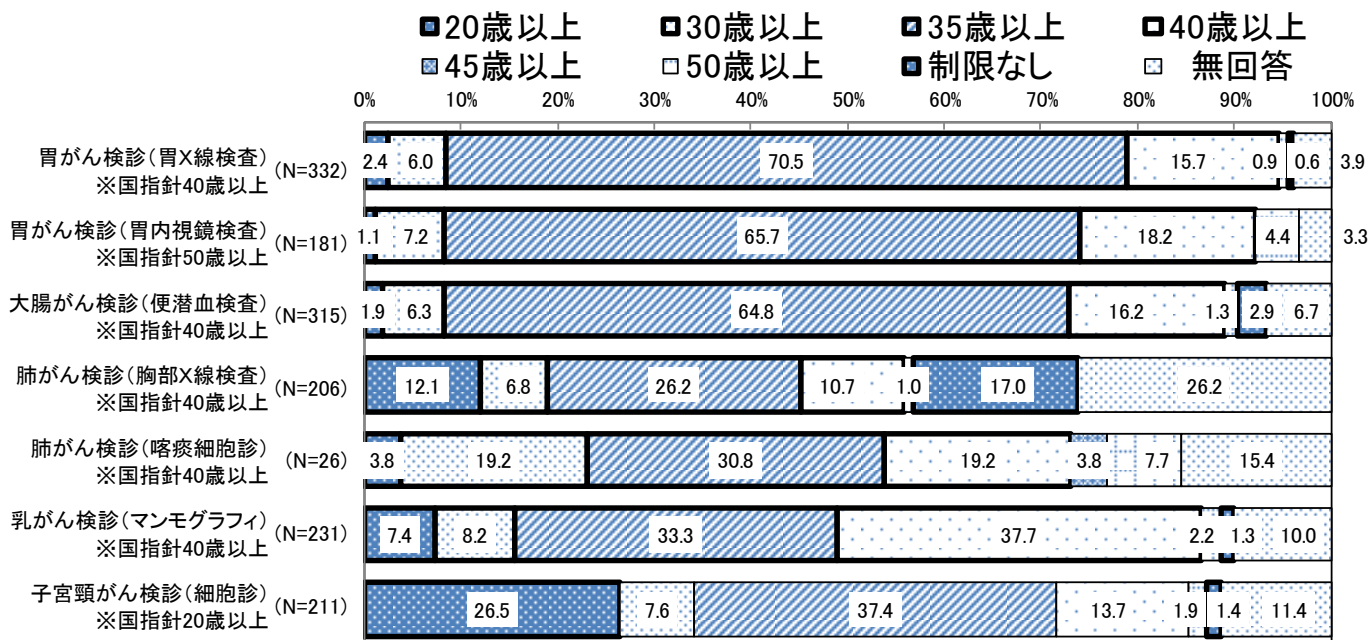
前回調査（H26）時と比較すると、「胃がん検診（胃内視鏡検査）」の実施率がわずかに減少しているものの、他の検診実施率はすべて増加している。



カッコ内：前回調査結果（H26）

②がん検診の対象年齢

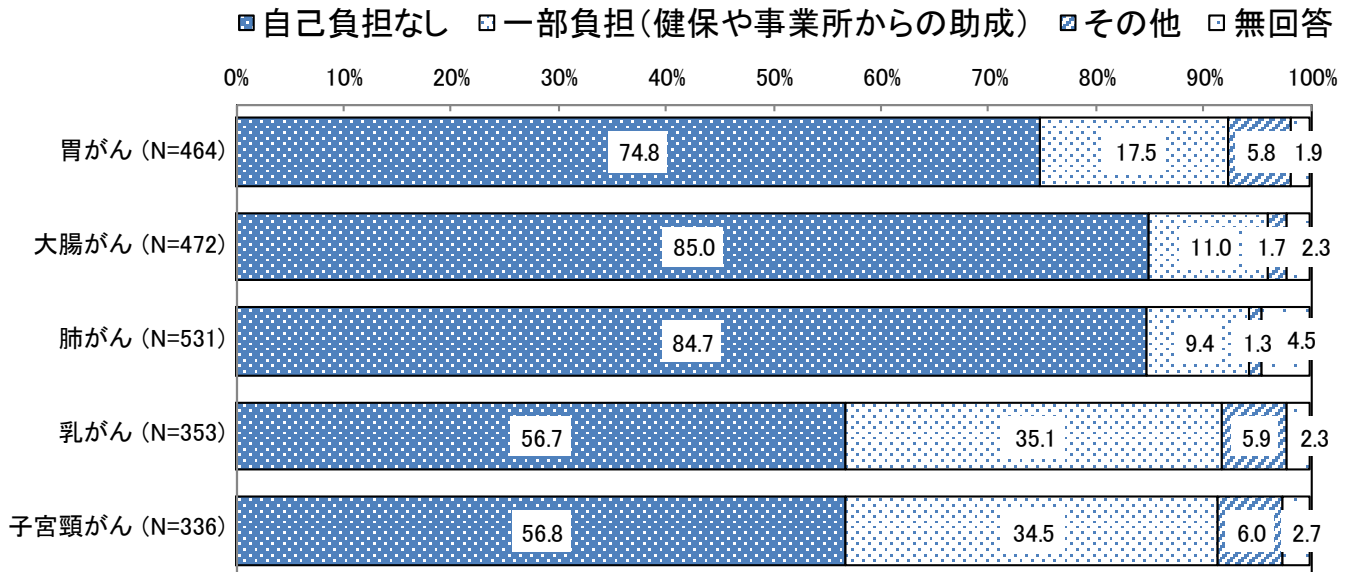
40歳以上の者が受診できる事業所は、「胃がん検診（胃X線検査）」が 95.2%、大腸がん検診（便潜血検査）」が 92.1%、「肺がん検診（胸部X線検査）」が 72.8%、「乳がん検診（マンモグラフィ検査）」が 87.9%となっている。また、20歳以上の受診が推奨されている子宮頸がん検診では、27.9%の事業所で20歳以上の従業員を受診対象としている。



③がん検診費用の自己負担

いずれの検診でも、「自己負担なし」が最も高く、「胃がん」が74.8%、「大腸がん」が85.0%、「肺がん」が84.7%、「乳がん」が56.7%、「子宮頸がん」が56.8%となっており、半数以上の事業所で従業員個人の自己負担を免除している。

その他の回答として、「5歳ごとの節目年齢は自己負担なし」、「偶数年齢は自己負担なし」などがあった。

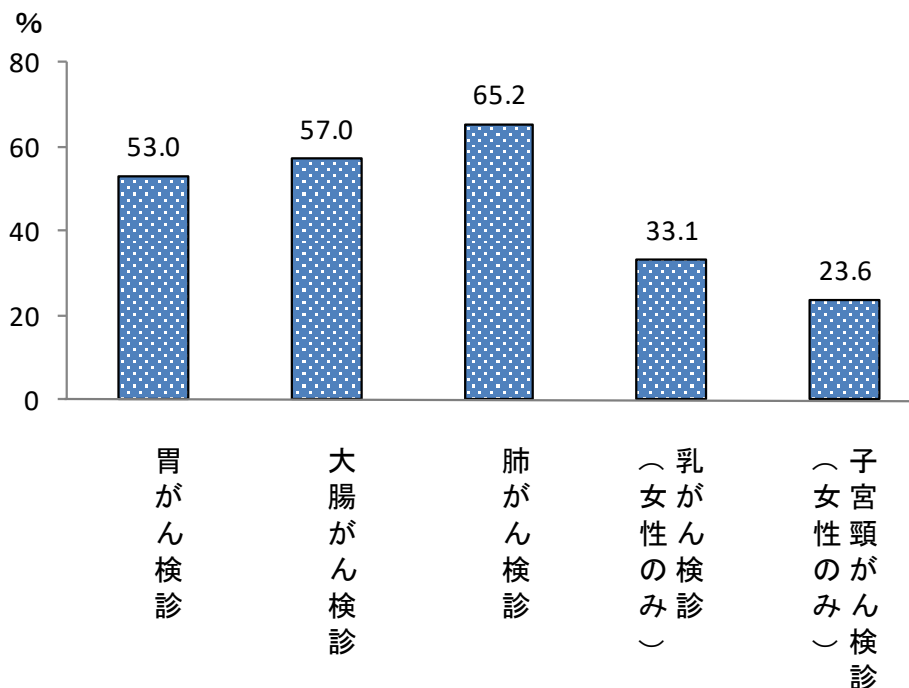


④部位別がん検診受診率 (40歳以上)

事業所における40歳以上の常用雇用者のがん検診受診率(子宮頸がん検診は全年齢)は、「胃がん検診」が53.0%、「大腸がん検診」が57.0%、「肺がん検診」が65.2%、「乳がん検診」が33.1%、「子宮頸がん検診」が23.6%となっている。

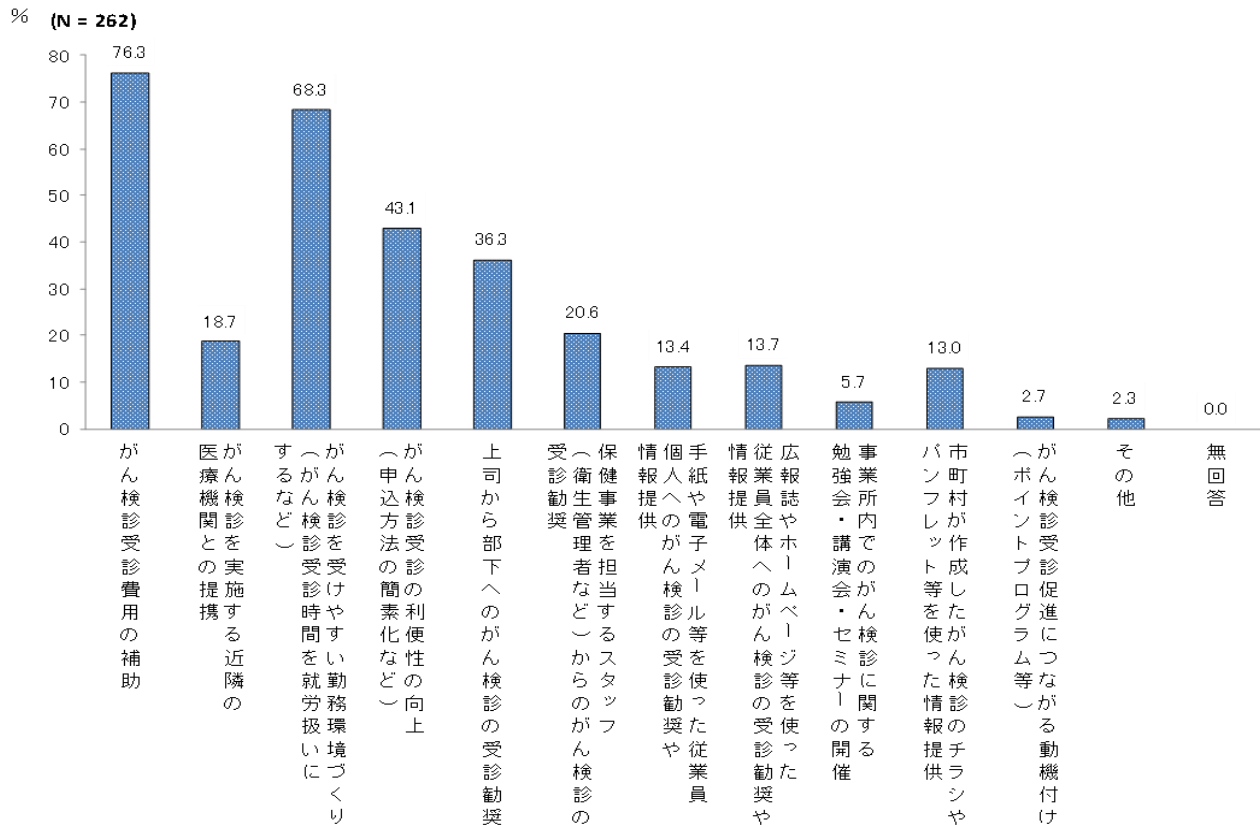
※乳がん検診、子宮頸がん検診は女性のみ

※子宮頸がん検診は全年齢



⑤がん検診受診者を増やすために実施している取組み

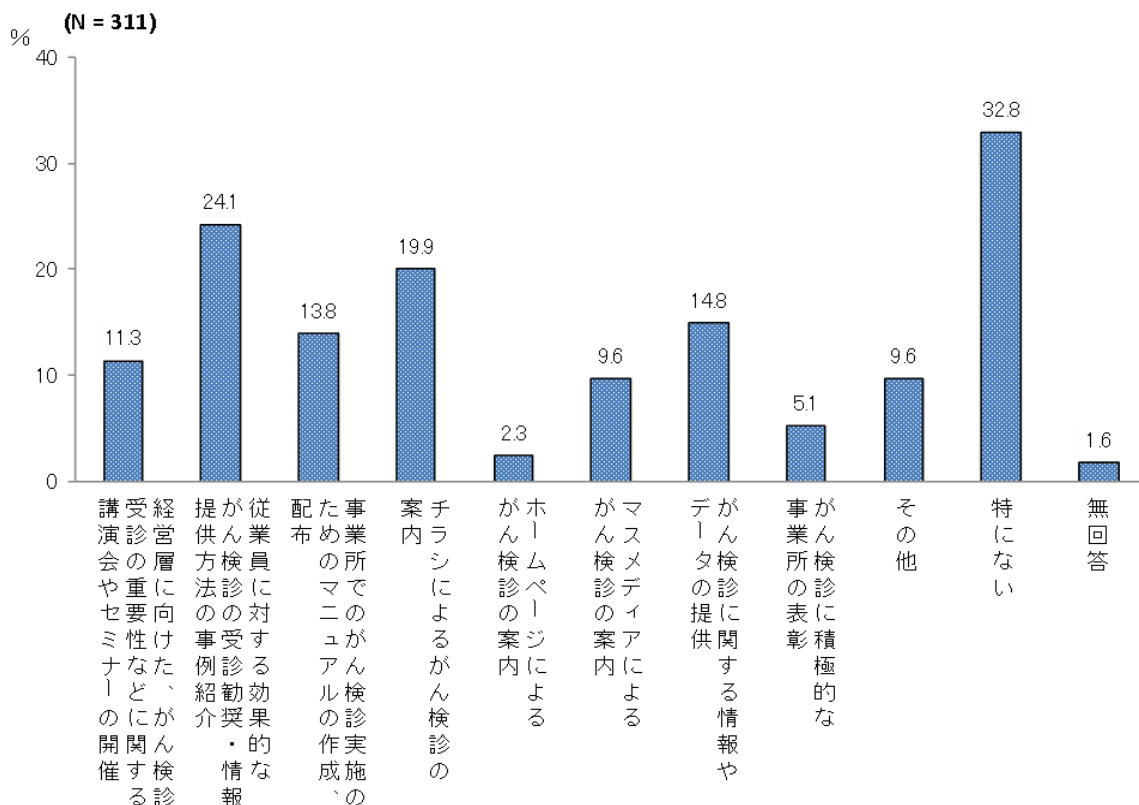
「がん検診受診費用の補助」が76.3%と最も高く、次いで「がん検診を受けやすい勤務環境づくり（がん検診受診時間を就労扱いにするなど）」が68.3%、「がん検診受診の利便性の向上（申込方法の簡素化など）」が43.1%となっている。



⑥がん検診受診者を増やすための取組みを実施するにあたって、行政に期待すること

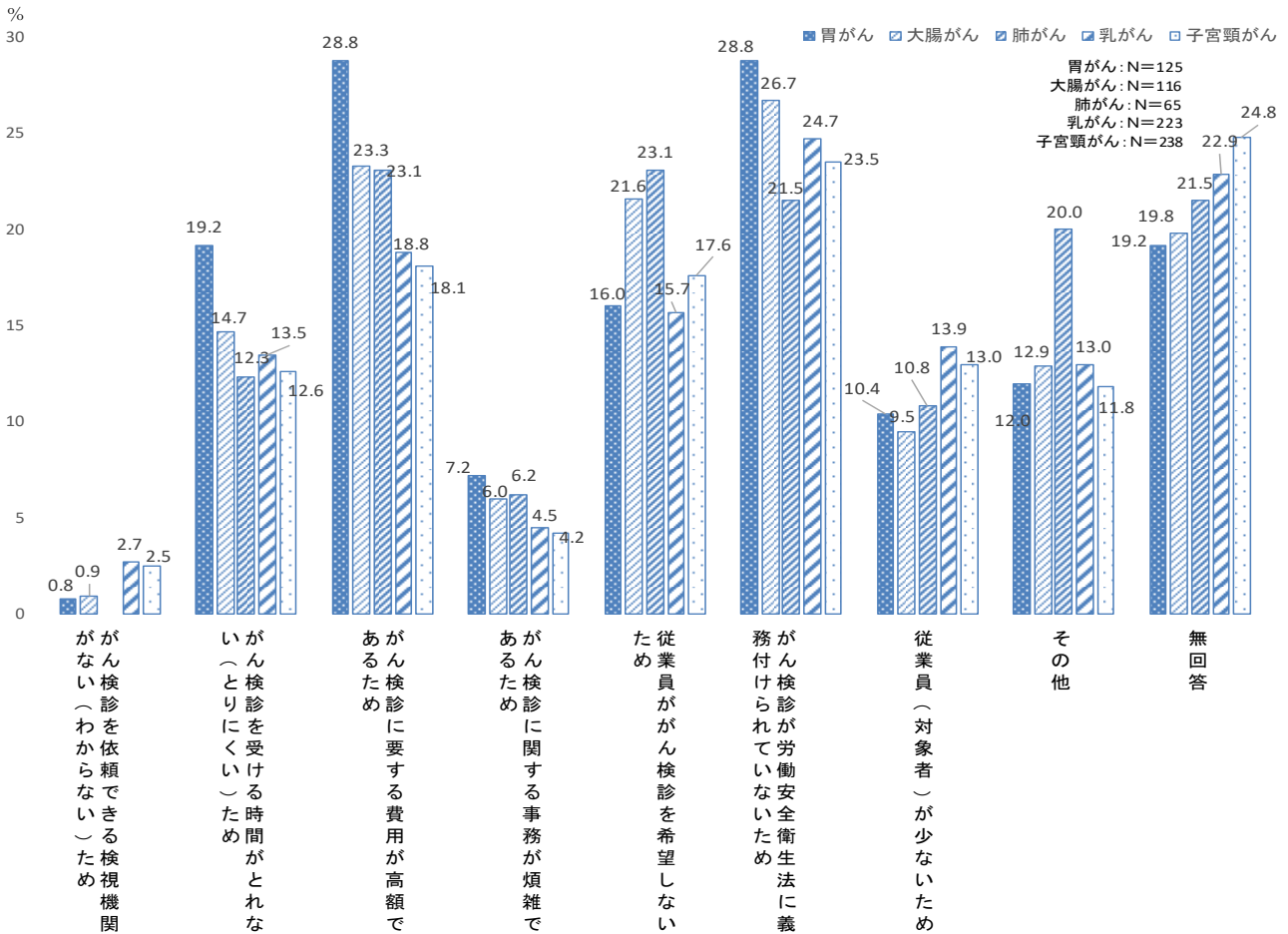
「従業員に対する効果的ながん検診の受診勧奨・情報提供方法の事例紹介」が24.1%と最も高く、次いで「チラシによるがん検診の案内」が19.9%、「がん検診に関する情報やデータの提供」が14.8%となっている。

その他の回答として、「がん検診の受診義務化」などがあつた。



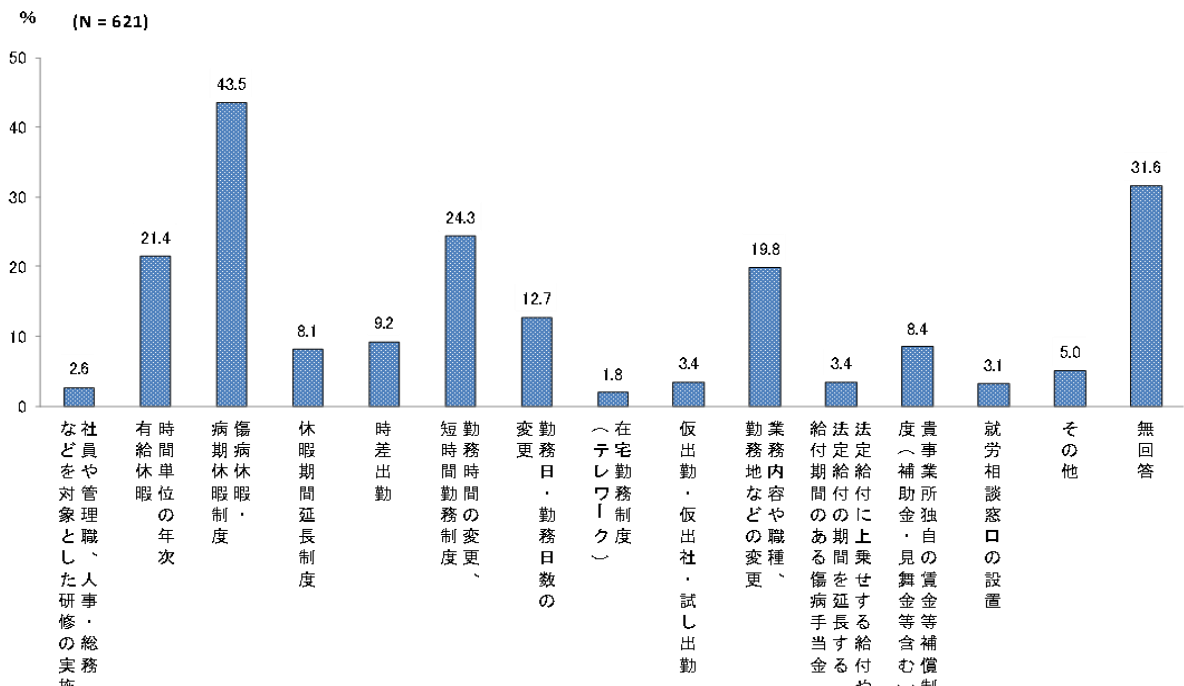
⑦がん検診を実施していない理由

胃がんでは、「がん検診に要する費用が高額であるため」と「がん検診が労働安全衛生法に義務付けられていないため」が28.8%と最も高くなっており、肺がんでは「がん検診に要する費用が高額であるため」と「従業員ががん検診を希望しないため」が23.1%と最も高くなっている。また、大腸がん、乳がん、子宮頸がんでは、「がん検診が労働安全衛生法に義務付けられていないため」が最も高くなっている。



⑧治療と仕事の両立を支援するための制度等

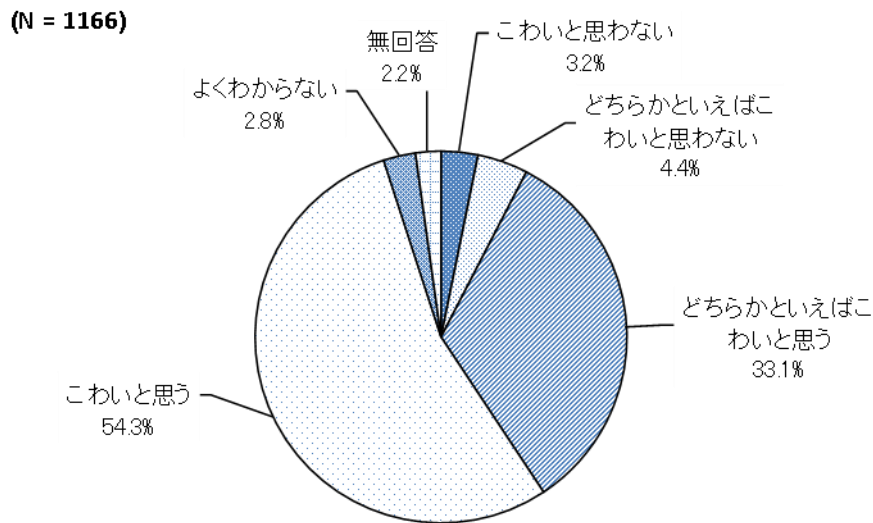
がんが発見された従業員の仕事と治療の両立を支援するために実施している取組みとしては、「傷病休暇・病期休暇制度」が43.5%と最も高く、次いで「勤務時間の変更、短時間勤務制度」が24.3%、「時間単位の年次有給休暇」が21.4%となっている。



(2) 従業員のがん検診等に関する意識調査（従業員向け調査）

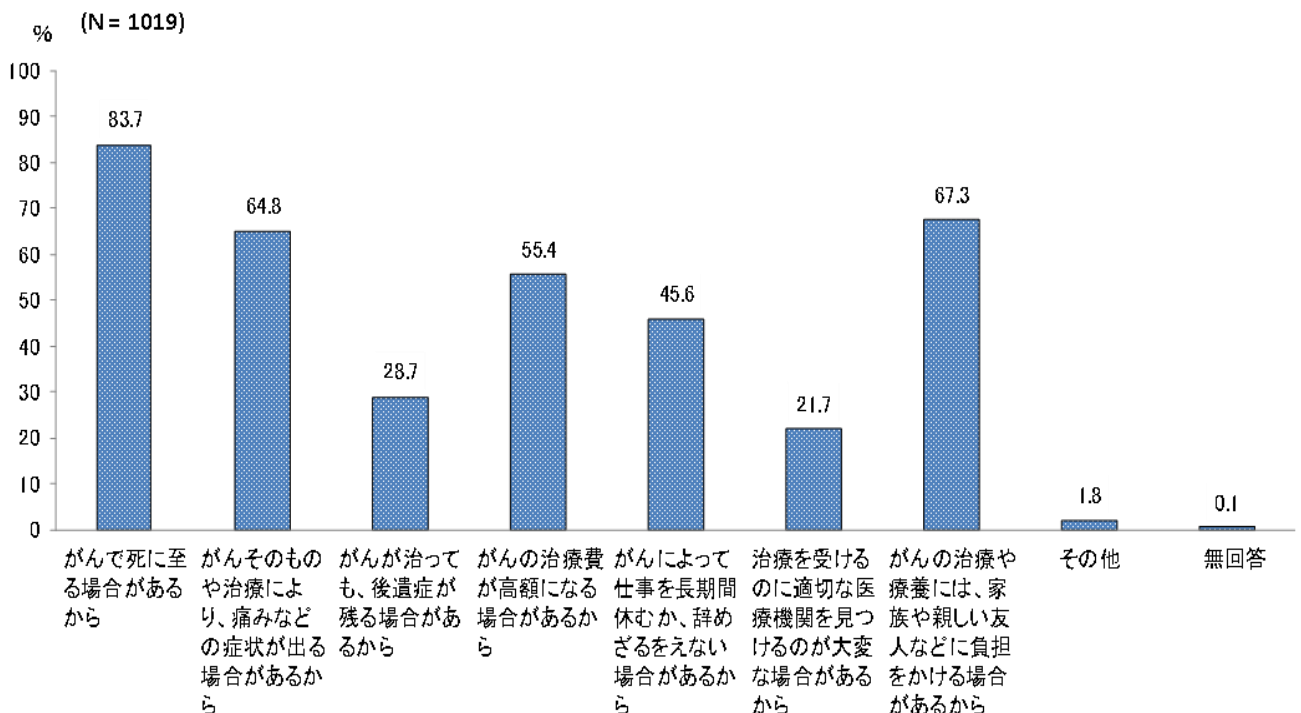
①がんに対する印象

「こわいと思う」が54.3%と最も高く、次いで「どちらかといえばこわいと思う」が33.1%、「どちらかといえばこわいと思わない」が4.4%となっている。



②がんをこわいと思う理由

「がんで死に至る場合があるから」が83.7%と最も高く、次いで「がんの治療や療養には、家族や親しい友人などに負担をかける場合があるから」が67.3%、「がんそのものや治療により、痛みなどの症状が出る場合があるから」が64.8%となっている。



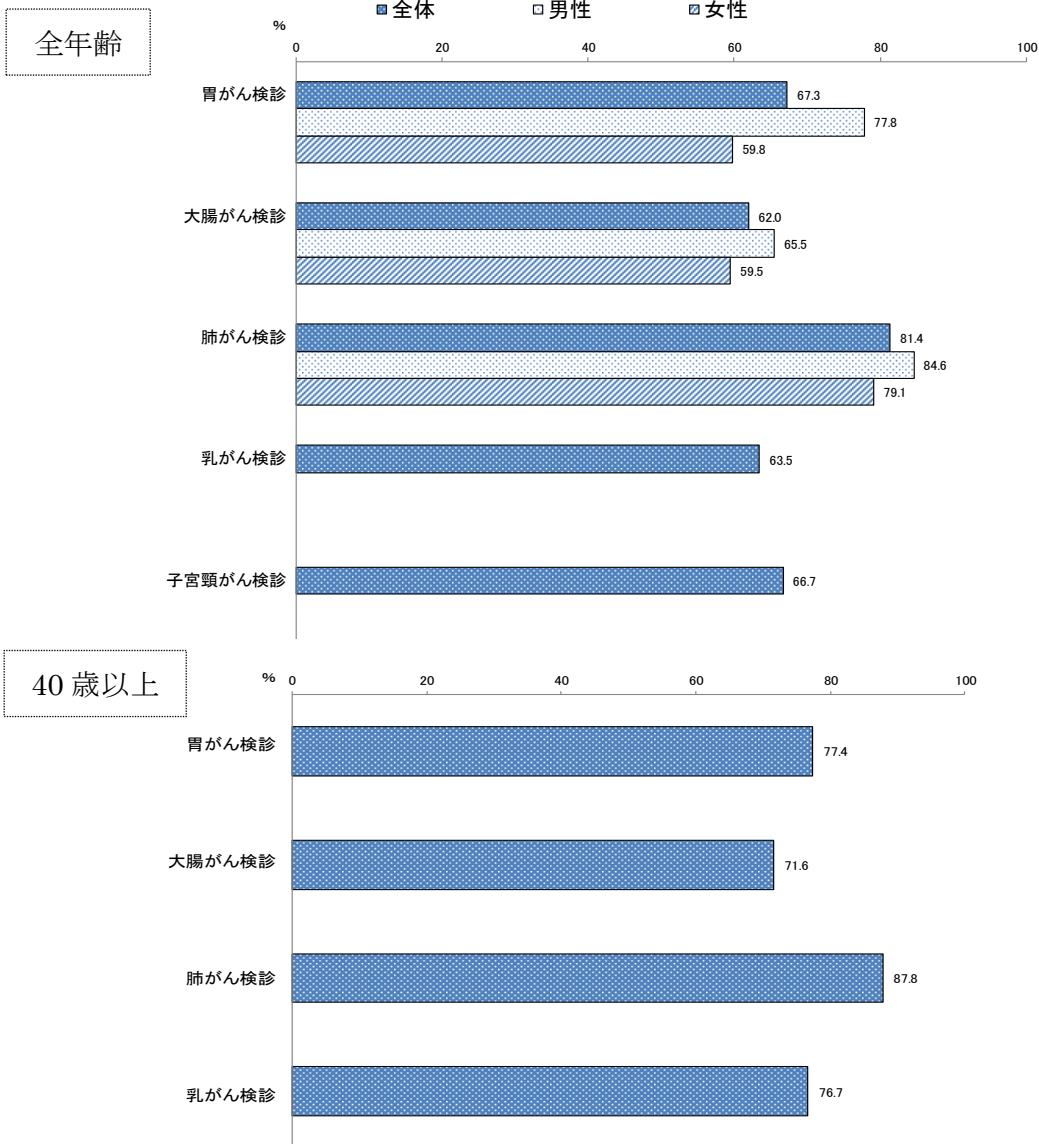
③がん検診の受診状況

【全体】いずれの部位も6割以上の者が受診しており、「肺がん検診」が81.4%と最も高くなっている。

【性別】いずれの部位も、男性が女性より受診した者の割合が高くなっており、最も差がみられた「胃がん検診」では、男性（77.8%）が女性（59.8%）より18.0ポイント高い。

【年代別】「胃がん検診」、「肺がん検診」では年代が高くなるほど、受診した者の割合が高くなっている。また、「大腸がん」では50代で最も高くなっており、「乳がん」、「子宮頸がん」では40代で最も高くなっている。

※「大腸がん」、「肺がん」は過去1年間、「胃がん」、「乳がん」、「子宮頸がん」は過去2年間の受診の有無を聞いた。



<部位別のがん検診受診状況（受診したと回答した者の割合）>

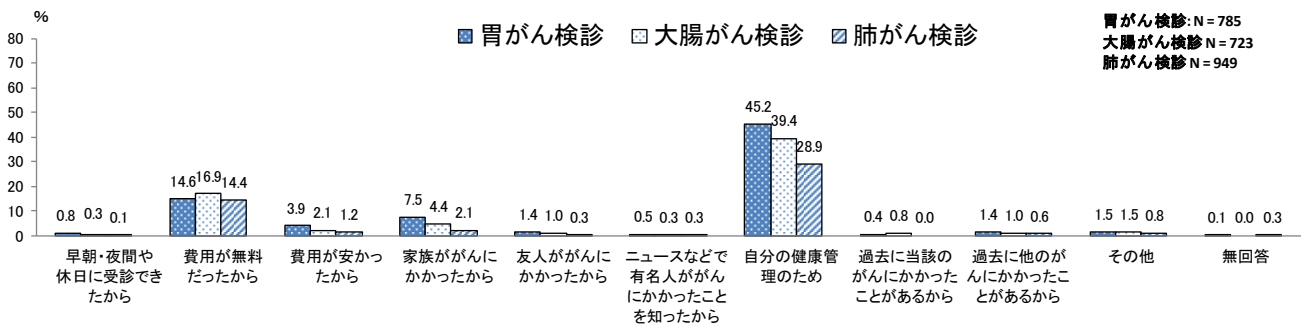
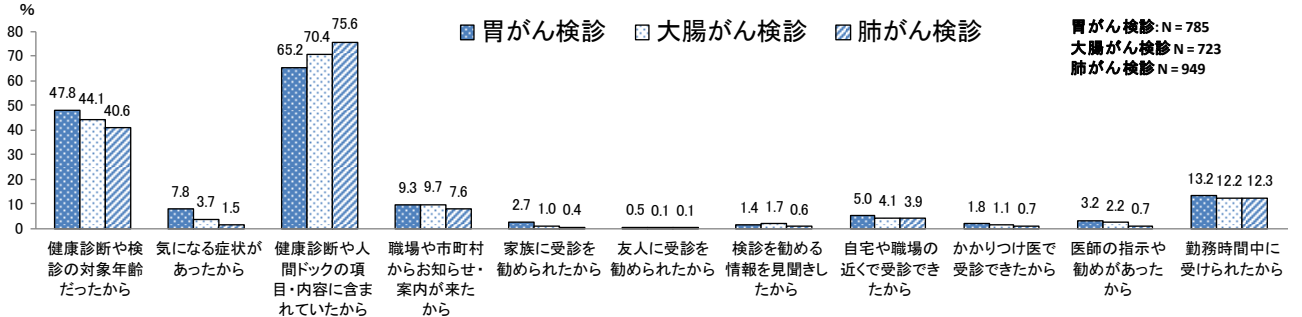
(%)

		胃がん	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮頸がん
全体		67.3	62.0	81.4	63.5	66.7
性別	男性	77.8	65.5	84.6		
	女性	59.8	59.5	79.1	63.5	66.7
年代	20代	4.5	9.1	42.0	9.2	32.9
	30代	47.4	40.3	68.8	49.3	66.7
	40代	75.7	70.0	85.9	79.0	75.5
	50代	76.9	73.4	88.7	76.8	75.1
	60代以上	83.3	71.3	90.7	65.3	46.9
	40歳以上	77.4	71.6	87.8	76.7	72.4

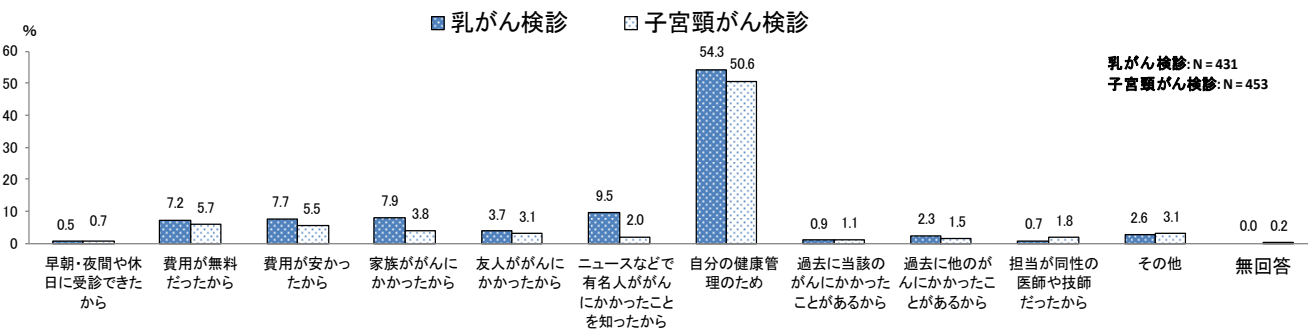
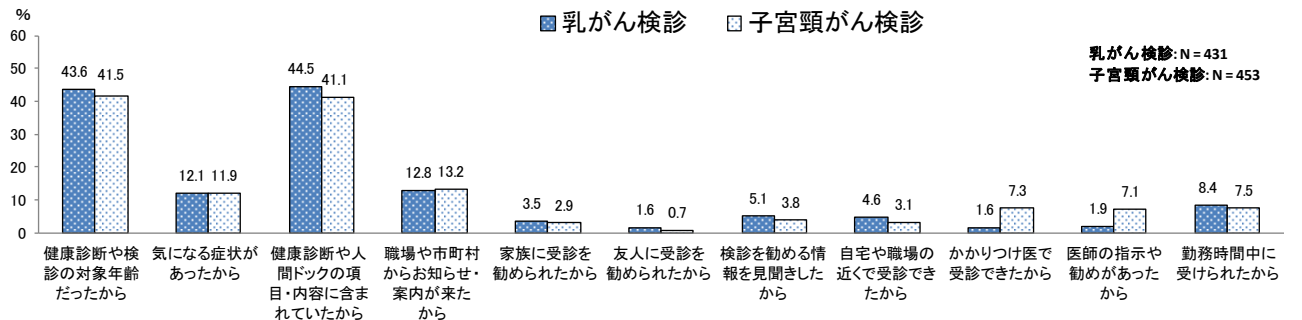
④がん検診を受診した理由

「健康診断や人間ドックの項目・内容に含まれていたから」では、「大腸がん検診」、「肺がん検診」が7割を超えて最も高くなっている。「乳がん検診」、「子宮頸がん検診」では、「自分の健康管理のため」が5割を超えて最も高くなっている。

<胃がん・大腸がん・肺がん>



<乳がん・子宮頸がん>

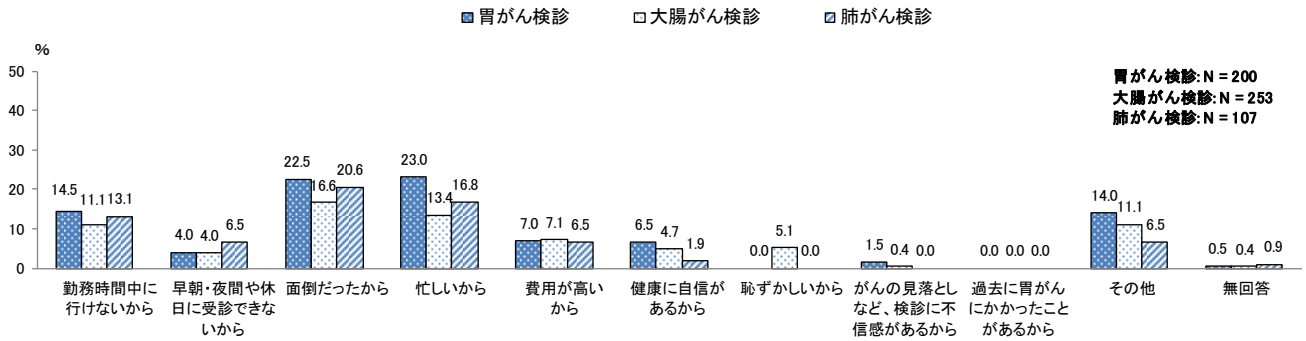
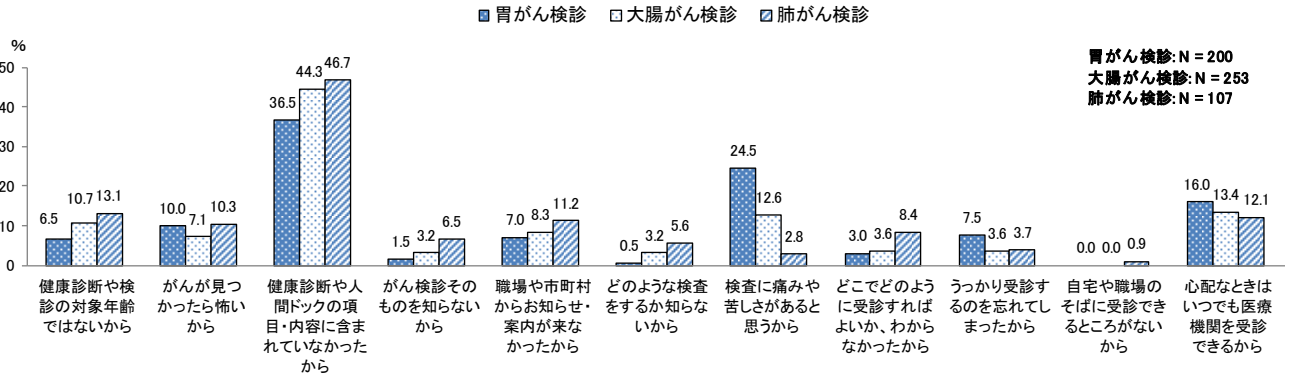


⑤がん検診を受診しない理由（40歳以上）

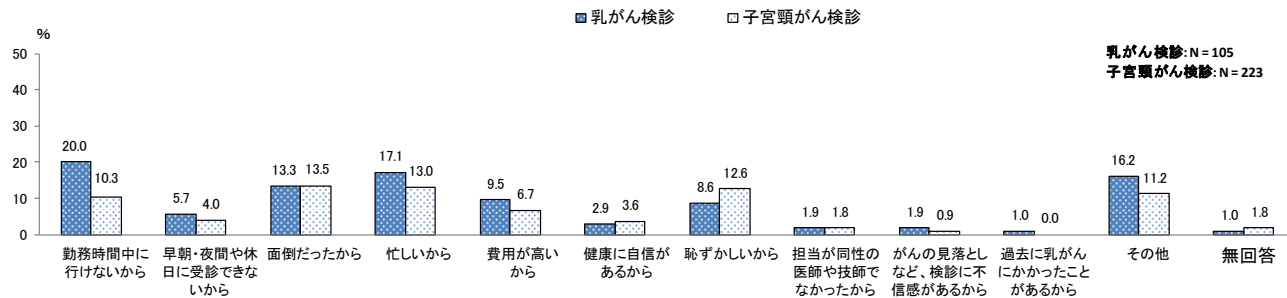
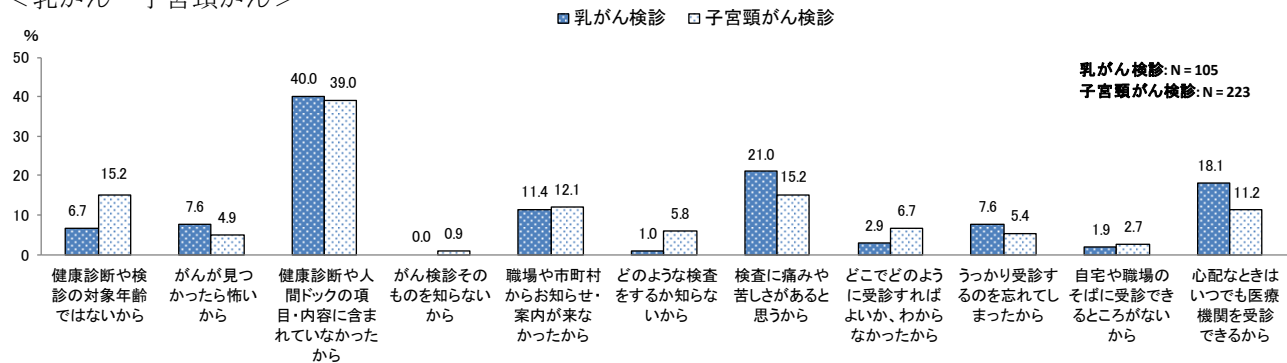
いずれの検診でも「健康診断や人間ドックの項目・内容に含まれていなかったから」が最も高くなっている。

また、「胃がん検診」、「乳がん検診」、「子宮頸がん検診」では、「検査に痛みや苦しさがあると思うから」が高くなっており、「大腸がん検診」、「肺がん検診」では、「忙しいから」、「面倒だったから」が高くなっている。

<胃がん・大腸がん・肺がん>



<乳がん・子宮頸がん>

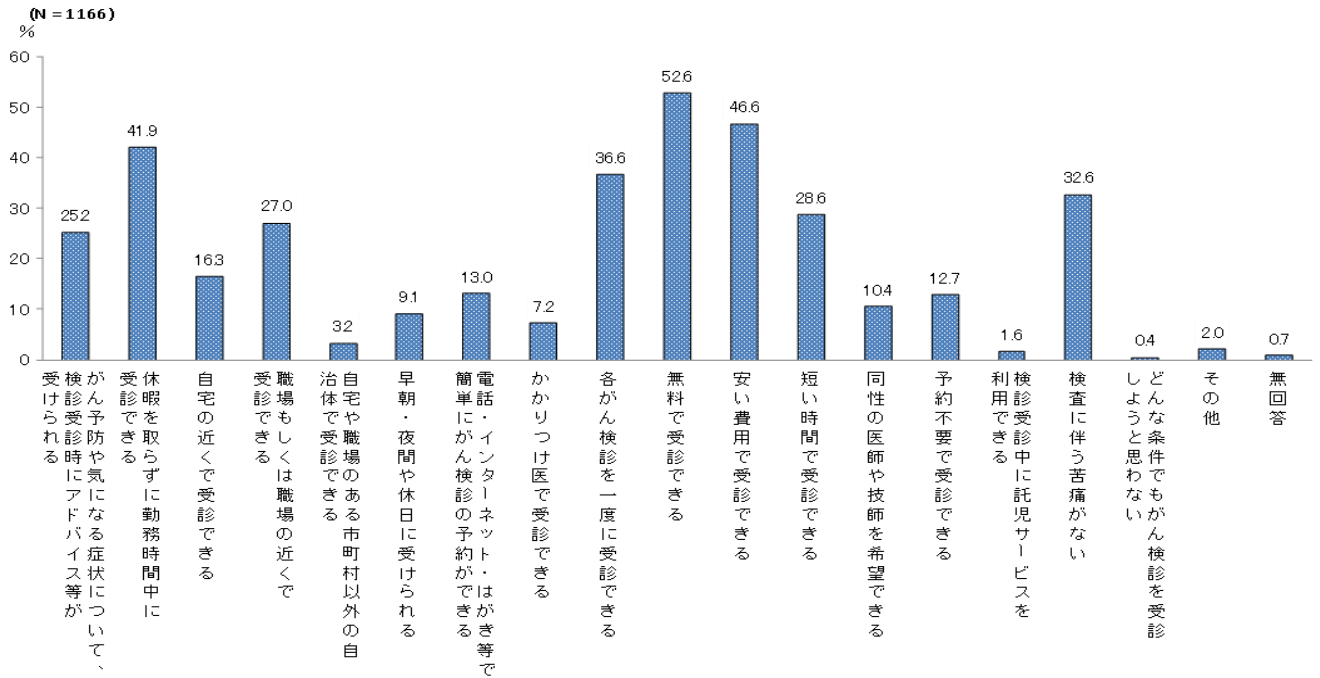


⑥がん検診を受診したいと思うきっかけ

【全体】「無料で受診できる」が52.6%と最も高く、次いで「安い費用で受診できる」が46.6%、「休暇を取らずに勤務時間中に受診できる」が41.9%となっている。

【性別】最も差がみられた「検査に伴う苦痛がない」では、女性（40.2%）が男性（22.0%）より18.2ポイント高い。

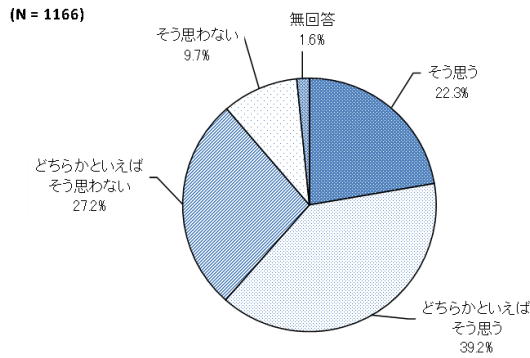
【性・年代別】「検査に伴う苦痛がない」では、女性の20代から50代で4割を超えている。「無料で受診できる」では、男性の30代と女性の20代から40代で6割を超えている。



	全体	受診したいと思うきっかけ																			
		がん予防や気になる症状について、検診受診時にアドバイス等が受けられる	休暇を取らずに勤務時間中に受診できる	自宅の近くで受診できる	職場もしくは職場の近くで受診できる	自宅や職場のある市町村以外の自治体で受診できる	早期・夜間や休日に受けられる	電話・インターネット・はがき等で簡単にがん検診の予約ができる	かかりつけ医で受診できる	各がん検診を一度に受診できる	無料で受診できる	安い費用で受診できる	短い時間で受診できる	同性の医師や技師を希望できる	予約不要で受診できる	検診受診中に託児サービスを利用できる	検査に伴う苦痛がない	どのような条件でもがん検診を受診しようと思わない	その他	無回答	
全体	1166	25.2	41.9	16.3	27.0	3.2	9.1	13.0	7.2	36.6	52.6	46.6	28.6	10.4	12.7	1.6	32.6	0.4	2.0	0.7	
性・年代別	男性(計)	487	29.8	40.5	15.2	30.8	3.7	8.2	10.3	9.4	33.1	46.8	40.7	26.9	0.0	9.4	0.2	22.0	0.4	2.7	0.8
	男性・20代	12	33.3	41.7	16.7	50.0	0.0	0.0	16.7	8.3	25.0	50.0	41.7	16.7	0.0	8.3	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	男性・30代	38	23.7	36.8	13.2	28.9	5.3	13.2	10.5	0.0	23.7	63.2	28.9	23.7	0.0	10.5	0.0	21.1	0.0	0.0	0.0
	男性・40代	175	22.3	43.4	15.4	29.7	1.7	8.0	10.9	4.0	34.3	57.7	37.1	32.6	0.0	9.7	0.0	25.1	0.0	4.0	2.3
	男性・50代	161	31.1	44.7	15.5	29.8	3.7	8.7	8.7	11.8	32.9	39.1	46.0	24.2	0.0	8.7	0.0	18.6	1.2	1.9	0.0
	男性・60代以上	101	42.6	29.7	14.9	32.7	6.9	6.9	10.9	18.8	35.6	33.7	42.6	23.8	0.0	9.9	1.0	21.8	0.0	3.0	0.0
	女性(計)	679	21.9	42.9	17.1	24.3	2.8	9.7	14.9	5.6	39.2	56.7	50.8	29.7	17.8	15.0	2.7	40.2	0.4	1.5	0.6
	女性・20代	76	19.7	52.6	23.7	39.5	3.9	6.6	27.6	5.3	27.6	63.2	61.8	40.8	23.7	7.9	2.6	40.8	0.0	1.3	0.0
	女性・30代	138	21.0	47.8	18.8	24.6	4.3	13.0	18.8	8.0	35.5	63.8	59.4	28.3	18.8	16.7	10.9	43.5	0.7	0.7	0.7
	女性・40代	229	21.4	40.2	17.0	24.0	1.7	9.6	14.8	3.5	37.6	62.9	48.9	31.9	18.3	14.4	0.4	41.0	0.0	0.4	0.0
女性・50代	185	23.8	43.2	13.0	22.2	2.7	9.2	8.1	5.9	48.1	48.1	45.9	27.0	16.2	15.7	0.0	41.1	0.5	3.2	1.1	
女性・60代以上	49	22.4	26.5	18.4	10.2	2.0	8.2	10.2	8.2	40.8	28.6	36.7	16.3	10.2	22.4	0.0	24.5	2.0	2.0	2.0	

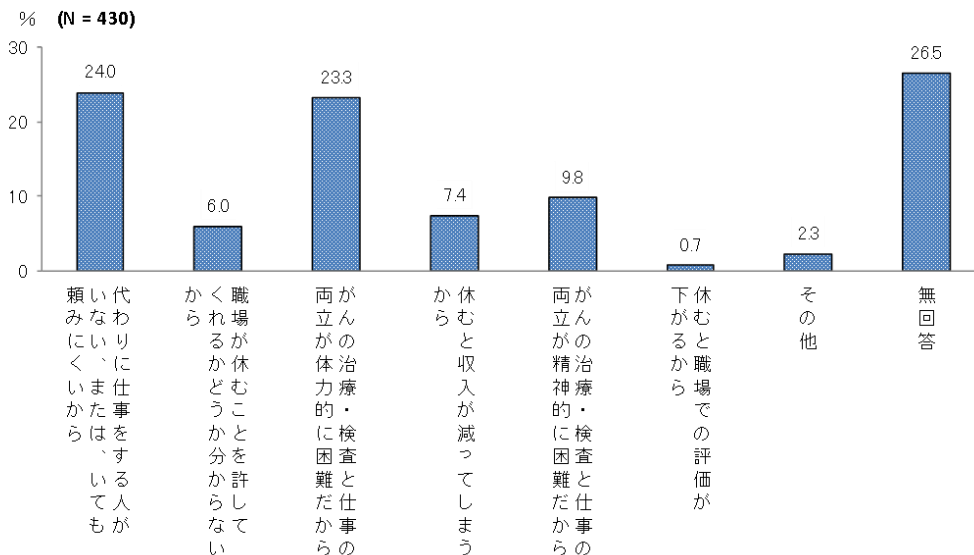
⑦職場はがんの治療や検査をしながら働き続けられる環境か

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答した者の合計は61.5%となっており、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」と回答した者の合計は36.9%となっている。



⑧がんの治療や検査をしながら働き続けることを難しくさせている理由

「代わりに仕事をする人がいない、または、いても頼みにくいから」が24.0%と最も高く、次いで「がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから」が23.3%、「がんの治療・検査と仕事の両立が精神的に困難だから」が9.8%となっている。



⑨がん患者が働き続けるために必要だと思う取組み

「病気の治療や通院のために短時間勤務が活用できること」が79.1%と最も高く、次いで「1時間単位の休暇や長期の休暇が取れるなど柔軟な休暇制度」が61.7%、「在宅勤務を取り入れること」が28.3%となっている。

